

# 企画展 作家とアトリエ展

—作品を生み出す身体、創造の場—

2014年12月20日(土)～2015年2月15日(日)



制作中の中村彝



中村彝「静物」1919年 当館蔵

## 1 展覧会名

**作家とアトリエ展 —作品を生み出す身体、創造の場—**

## 2 主催 茨城県近代美術館

**後援** 水戸市, 朝日新聞水戸総局, 茨城新聞社, 茨城放送, NHK水戸放送局,

**(予定)** 産経新聞水戸支局, 東京新聞水戸支局, 日本経済新聞水戸支局, 毎日新聞水戸支局,  
読売新聞水戸支局

## 3 会期

**2014年12月20日(土)～2015年2月15日(日) 47日間**

休館日: 毎週月曜日

※ただし1月12日(月・祝)は開館, 年末年始12月29日(月)～1月1日(木), 1月13日(火)は休館

開館時間: 午前9時30分～午後5時(入場は午後4時30分まで)

## 4 観覧料

**一般 600 (480) 円 / 高大生 360 (310) 円 / 小中生 240 (170) 円**

※( )内は20名以上の団体料金

※70歳以上の方, 障害者手帳等をご持参の方, 高校生以下(冬休み期間を除く土曜日のみ) 無料

※茨城県立の3美術館(近代美術館, 天心記念五浦美術館, 陶芸美術館)主催のすべての展覧会で何回でもご利用いただける共通年間パスポート(一般3,090円/高大生2,060円/小中生1,030円, 購入日より1年間有効)を各美術館にて発売中

## 5 展覧会概要

本展は、完成した美術作品だけではなく、作品が生まれる場に着目する展覧会です。美術館などで展示されている作品を目にしたとき、それがどこでどのように作られたのか、どんな人のどんな発想から生まれたのか、想像してみたことはないでしょうか。アトリエは、野外である場合も含め、アーティストが手仕事と精神的作業を同時に行う場所であり、自身にとってもっとも自由に神聖な空間といえます。アトリエに満ちる光や聴こえる音、読まれる本、食べられる物、出入りする人、使われる画材や家具なども、何らかの形で作品に作用するでしょう。アトリエには、作家の感覚や作品に関する秘密が沢山詰まっています。

作品はそもそも、作家とアトリエ両方の内部から生まれてくるといえます。作家は、頭と体、つまり自分の身体を通して作品のアイデアを探り、具体的な形を作り出します。そして、アトリエは、展示場へ出てゆく前の作品を内部に宿している子宮のような空間ともいえるでしょう。両者は、ちょうど人間でいえばその人を産んだ親や育った家のように、作品を外界へ生み出すもう一つの**身体**であり、その意味でかけがえのない**創造の場**ともいえます。そのふたつと作品との関係は、普段なかなかわたしたちが触れにくいものなのであり、この展覧会でそれらを知ることによって新たな発見があるに違いありません。

本展では、明治から現代までの20人の作家をとりあげ、彼らの作品生成の場を様々な角度から見ていきます。当館敷地内に新築復元されている中村彝のアトリエや、生涯にいくつかの画室を構えた横山大観や小川芋銭、そして茨城ゆかりの現代作家のアトリエを、作品とともに紹介し、作家の身体と作品が生まれる空間との関係を探ります。

### 【広報文1】(約50字)

作品が生まれる場に着目する展覧会。茨城ゆかりの中村彝、横山大観、現代作家らのアトリエを作品とともに紹介。

### 【広報文2】(約100字)

完成した美術作品だけでなく、作品が生まれる場に着目する展覧会。当館敷地内に新築復元されている中村彝のアトリエや、生涯にいくつかの画室を構えた横山大観や小川芋銭、そして茨城ゆかりの現代作家らのアトリエを作品とともに紹介。

### 【広報文3】(約200字)

完成した美術作品だけでなく、作品が生まれる場に着目する展覧会。作品が生まれる空間であるアトリエと、生み出す身体である作家の感性や身体感覚との関係を探る。当館敷地内に新築復元されている中村彝のアトリエや、生涯にいくつかの画室を構えた横山大観や小川芋銭、そして茨城ゆかりの現代作家らのアトリエを、映像や写真、体感可能なディスプレイによって作品とともに紹介。近代から現代までの作家たちのアトリエの雰囲気味わい、創造の秘密に迫る。

## 6 出品点数及び構成(予定)

**作家20名、作品57点** ※所蔵の記載のないものは当館蔵

### 1章 心身に自然を宿して 日本の住空間と画室

小川 芋銭《海島秋来》1932年 紙本・淡彩・軸装

横山 大観《月満山》1937年 紙本・墨画・軸装

### 2章 戸外へ! 空の下のアトリエ

カミユ・ピヨ 《グラット=コックの丘からの眺め、ポントワズ》1890年 油彩・キャンバス・額装

辻 永《飼はれたる山羊》1910年 油彩・キャンバス・額装

### 3章 僕の部屋は世界へ通じる 描かれたアトリエ

中村 彝《裸体》1916年 油彩・キャンバス・額装

安藤 信哉《画室にて》1964年 油彩・キャンバス・額装

### 4章 生成の場にかける想い 作家たちのデザイン

田中 信太郎《ディスタンスシリーズ門 No.1》1976年 ステンレススティール

間島 秀徳《KINESIS No.215》2004年 麻紙・岩胡分・墨・水・木製パネル 個人蔵

## 7 展覧会の見どころ

### (1) 近代の日本画の制作方法を体感。

昭和前期頃までの日本画家は、日本家屋の畳の上で紙や絹を水平に寝かせて描くことが多かったようです。画家たちは自らの絵画世界を作り出すとき、実際の対象を見ながら写すというよりも、教養として身につけた仙境のイメージや旅先や日常で出会う自然を自らの心身に宿し、絵にかがみこむようにして描き出していたといえます。そんな日本画家と絵の関係が体感できる展示を行います。

### (2) 近代の洋画家の理想的なアトリエを回想。

明治大正期の洋画は、安定した光が入る北窓を備えた洋室で、イーゼルにキャンバスを立て、モデルやモチーフを見ながら描くことが理想だったようです。西洋由来のいわゆる「アトリエ」の始まりをいくつかの作品をもとに回想します。

### (3) 創作の場としての戸外をとりあげる視点。

「空の下のアトリエ」と題し、印象派を代表するピサロや、フランスに留学した黒田清輝が日本にもたらした野外制作の考え方や作品を見ていきます。ピサロが「動くアトリエ」と呼び愛用した車輪付きイーゼルの再現も行います。

### (4) 茨城出身の巨匠、横山大観や中村彝の画室と制作との関係を紹介。

日本画家の大観が長く暮らした上野池之端の画室や、洋画家の彝が晩年を過ごした新宿下落合のアトリエを、間取りや採光、建築材、画材道具、画家の生活や思想などに着目し、個々の制作と画室との関係を読み解く視点から紹介します。

### (5) 中村彝の没後 90 年に合わせ、彝の身体と居住空間について再考。

37歳で夭折した画家中村彝は、病弱で留学はできませんでしたが、庭にまでこだわって建てたアトリエ兼自宅で、制作に励み、画集を眺め、レコードを聴き、手紙を書き、友人と語り合いました。展示会場では、作品に描かれたテーブルや椅子などと作品とを見比べることができます。当館敷地内の彝アトリエでは、開館以来初のイベントとなる、彝が書いた手紙の朗読とダンスのパフォーマンスにより、画家の身体性を肌で感じ、思想や人柄に親しめる機会を設けます。

### (6) 茨城ゆかりの現代作家の“創作の場”を体感できる展示。

現在活躍する8人の作家をとりあげ、それぞれのアトリエと作品、その関係を紹介します。

- ・ニューヨークから戻り行方市の田園地帯の中の巨大なスタジオで虹色を基調に制作する<sup>あいおう</sup> **饗嘸** (1931-)。
- ・筑波山を望む石岡市の市街地で抽象彫刻を手がける**六崎敏光** (1938-)。
- ・日立の山奥に和風モダンなアトリエを建ててミニマルな立体造形を追究する**田中信太郎** (1940-)。
- ・長年暮らしたつくばから千葉県九十九里へ移住し海の側で宇宙的スケールを感じさせる作品を作り続ける**河口龍夫** (1940-)。
- ・職場である筑波大学に近い自宅兼アトリエで、夜を徹して鉛のカラーージュを加えた重厚な油彩画を仕上げる**玉川信一** (1954-)。
- ・土浦市街の静かで明るいアトリエで毎日のドローイングを通して無意識に手をゆだね軽妙な版画を制作する<sup>きょうこ</sup> **佐藤杏子** (1954-)。
- ・常陸大宮市の田んぼの中で水面の反射をテーマにスキージという直線的なのへらで油絵を作り出す<sup>にろう</sup> **野沢二郎** (1957-)。
- ・霞ヶ浦を一望する開放的なアトリエで体全体を使い水や顔料を流す独創的方法で日本画を制作する**間島秀徳** (1960-)。

すべてのアトリエは学芸員が実地調査し、写真や映像など多彩なバリエーションで紹介いたします。また、出品作品の一部には新作も含まれます。

### (7) アトリエを通して、美術の在り方に想いをめぐらす。

アトリエはそもそも「自分の部屋」としての性格を持っていました。しかし、現代では、本展の出品作家たちのように、自身のアトリエの中でも近代的個性や自我を問い直しながら、常に新しい美術的冒険を行おうと日々格闘する作家も増えています。アトリエは、作家個人の思想や身体性のみならず、変化する美術の在り方までも映し出しているのです。

## 8 企画展イベント

### (1) オープニングイベント

日時：12月20日(土) 午前9時10分～

会場：2階企画展示室前

内容：関係者及び一般来場者2名によるテープカット

応募方法：往復ハガキ、または来館による事前申込制(オープニングイベント参加希望、住所、氏名、電話番号を明記)。抽選で50名に本展覧会招待券進呈。さらに当選者の中から2名にテープカットに参加していただきます。

応募締切：12月10日(水)

### (2) ミュージアムシアター

①日時：12月23日(火・祝) 午後2時～

上映作品：ビューティフル・マインド(2001年/136分/アメリカ)

②日時：2月14日(土) 午後2時～

上映作品：スラムドッグ\$ミリオネア(2008年/120分/イギリス)

会場：地階講堂

定員：250名(参加無料、申込不要)

### (3) 朗読&コンサート「中村彝を見る、聴く、想う」

日時：12月24日(水)

午前11時～ 第1部：コンサート/出演：吉田真澄(ソプラノ)、月岡 優(ピアノ)

会場：1階エントランスホール/定員：120名(参加無料、事前申込不要)

午後2時～ 第2部：朗読/出演：佐藤淑子/会場：地階講堂

定員：250名(参加無料、事前申込不要)

午後3時～ 第3部：コンサート/出演：吉田真澄(ソプラノ)、月岡 優(ピアノ)

会場：1階エントランスホール/定員：120名(参加無料、事前申込不要)

### (4) 学芸員によるギャラリートーク

日時：1月12日(月・祝) 午後2時～

会場：2階企画展示室(要企画展チケット)

### (5) ダンス&朗読パフォーマンス in 中村彝アトリエ「画家の手紙」

日時：1月18日(日)、24日(土)

各日とも2回公演 午前11時～、午後3時～

出演：白井 剛(振付家/ダンサー)

会場：当館敷地内中村彝アトリエ

定員：各回30名(要企画展チケット、往復ハガキまたはメールによる申込み制)

### (6) ちびっこ家族のための鑑賞会

日時：1月29日(木) 午前10時30分～

会場：2階企画展示室

定員：未就学児とその保護者5組程度(要企画展チケット)

内容：当館職員とボランティアスタッフが参加者と共に展示室を回り、ご家族が小さなお子様と一緒に展示を鑑賞できるようにお手伝いします。

申込方法：電話またはFAXにて事前申込(先着順)

### (7) 出品作家によるアーティストトーク

日時：1月31日(土) 午後2時～

講師：野沢二郎(画家/明星大学教授)

会場：2階企画展示室(要企画展チケット)

### (8) 建築家によるレクチャー「建築家がみるアトリエ」

日時：2月8日(日) 午後2時～

講師：足立 真(建築家/日本工業大学教授)

会場：地階講座室

定員：70名(参加無料、事前申込不要)

## 9 その他イベント

### (1) 新春 絵はがきプレゼント

期間：1月2日(金)～1月4日(日)の3日間

場所：1階総合受付

対象：チケット購入者（各日とも先着50名+ラッキーナンバー当選50名）

配布物：当館所蔵品絵はがき

### (2) 美術館セミナー実技&トーク「ドローイングのように描く銅版画」

日時：1月17日(土) 午前10時～午後4時30分

会場：2階企画展示室及び地階講座室

講師：佐藤 杏子氏（本展出品作家）

内容：同氏による作品解説の他、銅版画の制作過程を体験していただきます。

定員：20名（要企画展チケット。往復ハガキによる事前申込制，申し込み多数の場合は抽選）

## 10 お問い合わせ先

〒310-0851 水戸市千波町東久保 666-1

(TEL) 029-243-5111 (FAX) 029-243-9992

(E-mail) [info@modernart.museum.ibk.ed.jp](mailto:info@modernart.museum.ibk.ed.jp)

(ホームページアドレス) <http://www.modernart.museum.ibk.ed.jp/>

展覧会担当 永松 左知, 花井 久穂 / 広報担当 平川 正

【作品介绍】

※1 こちらに掲載された作品は、本展覧会の広報目的の場合にのみ転載可能です。

※2 画像には、作家名・題名・制作年・所蔵を必ず入れてください。



横山大観「月満山」1937年 当館蔵



中村彝「静物」1919年 当館蔵



辻 永「画房の一日」1931年 当館蔵



野沢二郎「水面／薄明」2011年 当館蔵



田中信太郎「ディスタンスシリーズ 弧」  
1976年 当館蔵



佐藤杏子「Unconscious no. 16」  
2002年 作家蔵